



国際医療NGO
「AMDA」代表

菅波 茂氏

政治の原点は対立だ。総選挙では郵政民営化について、どんな対立軸があるのか、有権者に明快な説明がなされなかった。だから、民営化の本質が理解されず、面白そうな人を選ぶ人気投票になってしまった。

本質を理解するには、国際社会における、日本の郵政事業について考える必要がある。日本の官が運用してきた郵貯の資金を民間に回すことは、米国の国益に直結する。郵政民営化を通じて間接的に米国経済を支えるのか、別の道を選択するのかが本当の争点ではなかったか。

日本の政治や経済はまだ世界展開が不十分だ。米国を選ぶのか、選ばないのかという限られた視点しかない。欧州やロシア、インドなどにも目を向け、幅広く関係を強化することが、政治の選択肢を増やし、健全な国益を確保することにつながるだろう。

郵政民営化の本質、理解進まず